大柵欄のカタリスト

北京の都市更新を背景とした胡同における宿泊施設の設計提案

全体計画図

N

CATALYST OF DASHILAN

Design of Boutique Hotel in Hutong with the Background of Urban Renewal in Beijing

設計背景

中国ウルムチ市

中国上海市

スケール感の違い

（1）千編一律な都市化

中国の開発は急速に進む過程で、都市の様相は味気のないものになっている。それに伴い、都市の特徴や文化の多様性が失われている。すべての都市は一致する傾向がある。

（2）「不謹慎な都市計画」から「北京胡同の魅力の再意識」

現在までの不謹慎な都市計画と文化保護意識の欠如が、北京の旧城の景観を損ね、旧城の至るところに歴史街とは不調和な大きなボリュームの建築が散在している。

一方で胡同には低い家屋からなった秩序や伝統的雰囲気が近代的な高層ビルの風景に慣れた人々は、このような心地良いサイズ感の貴重さを意識してきた。

多様な建築様式

一類　国家級、市級、区級文化財

（写真出典：http://blog.sina.com.cn/s/blog_3273021f0102w3we.html 2015年10月7日閲覧）

二類　歴史的価値の高い建物

三類　歴史情報が残る伝統建築

四類　伝統的な建築と調和した建築

五類　伝統的な建築と不調和な建築

１～三類は保護べきである。四類は一応保留できる建物だが、いずれは取り壊されるのが歴史街区には有益である。五類は歴史町として絶対解体した方がいい建物である。

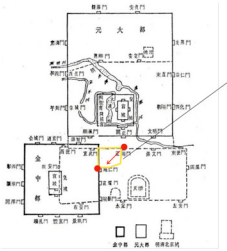
大柵欄の位置

大柵欄地区は北京の中心ランドマークである天安門の南西側に位置し、南中軸線に近い。天安門に最も近く、最も保存状態がよく、規模が最大の歴史文化街区の一つである。

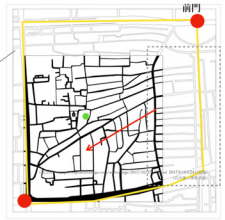
大柵欄の斜街が特徴

北京胡同では珍しい斜街がたくさんある。これによって多くの鋭角交差点も生じた。

主な観点は斜街が自発的に成長してできたと考えている。王世仁さんなどの学者は大柵欄地域の斜街は元大都と西南部の元金中都の間で人と貨物の往来による結果と述べていた。

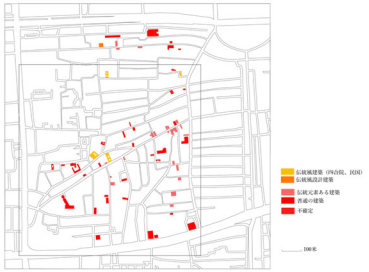


明清北京城 と元大都と金中都の位置関係

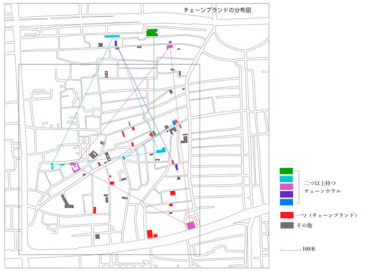


旅館業界の混乱な現状

安価なチェーンホテルのブランドが利益を重視し、質の悪い建物を借りて、複数の建設を行う。歴史町の文化意識があって、簡単に改造したチェーンホテルもあるが、でも表面的な仕事である。



宿泊施設タイプの分布図



チェーンブランドホテルの分布図

観光ルートを構成する道のそれぞれ特徴を設計に集約する

大柵欄西街：大柵商店街の西側の延長線上には、商業が繁栄し、居住院が混在している。大通り側の建物や四合院の大部分を観光店やレストランや旅館に改造したり、新築したりしている。

⟶ 観光客向けの店舗

琉璃廠東街：起源は清代で、当時は各地から科挙試験を受ける人々がこの一帯に集中して住んでいたため、書物や筆墨紙硯を売る店が多く、文化的な雰囲気が濃い。今の建物は伝統建築を模倣したもので、本当の歴史的価値はないが、伝統的な建築空間と伝統的な機能をよく再現している。

⟶ 観光客や地元の人向けの芸術的画材骨董店舗

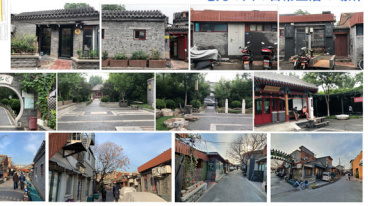
楊梅竹斜街：大柵欄地域で重要な商業と居住が混在している街だ。新しい商業の形式は"北京設計週"をきっかけに展開された。大柵欄西街のような企画された商業町と違って、楊梅竹斜街の商業は自発的に形成された。現代的でセンスのある店が集まっているので、若者に人気がある。

⟶ 若者を対象とした先端的なデザインの店舗

敷地である胡同

桜桃胡同：住宅、公園、少量の旅館、小さな商業、アトリエなどがある。

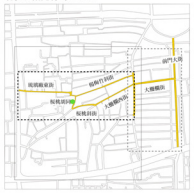
⟶ 地元の人の日常生活の場所



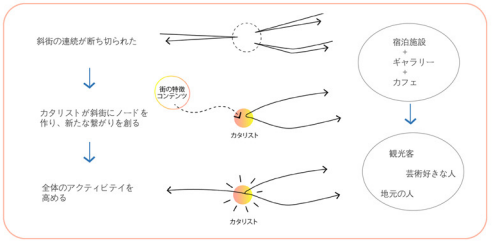
設計コンセプト

昔、人と貨物の往来による

現在、観光行為による



観光の行為は力の作用方向を変えた。



▪ 観光ルートの断ち切られたところを敷地にする

現在の大柵欄の東から西への観光ルートも新しい道の方向に形成されると考え、この連続性を強めたい。

楊梅竹斜街(東)は若い人の間で人気が高い一方で、中国の伝統的な書画芸術と骨董文化が代表する中国琉璃廠東街(西)は人気が落ちている。

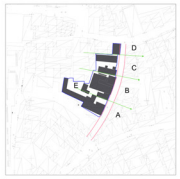
▪ 人々の交流を促進する大柵欄の触媒を創る

宿泊施設：外来者を歴史町の雰囲気を体験するため、地域の全体性を示す。

カフェ：地元や外来者の交流を促進するため、そして東の二つの観光ルート楊梅竹斜街と大柵欄西街を直接つなぐことができる。

ギャラリー：琉璃廠東街が代表する中国伝統書画芸術の雰囲気を高めるため、このような琉璃廠東街の代表的な要素を注入する方法で間接的な繋がりを作成する。

敷地の現状：新旧が混在する街並み



立面は混乱な現代要素が溢れている一方で、大きなボリュームの建物が一つあって、建築の質が悪い。A庭で伝統要素がある建物が一つあって、取り壊すよりリノベーションしたい。他の建物は取り壊し、新しく作ろうと考える。

テクスチャーの復元

四合院と呼ばれるが、四つ建物単体で囲った庭園があるほか、斜街という空間配置による限られた土地に3つの建物単体または2つの建物単体で囲った庭園もあり、商店街の両側にも建物単体でもある。

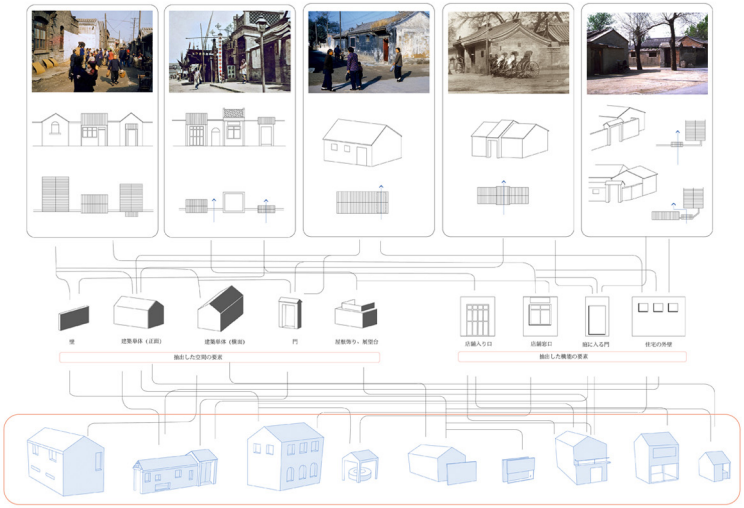
四合院の基本単位は「合院」と見ることができ、設計の第一歩は、敷地の合院を歴史的な街並みに復元することである。

敷地の現状のテクスチャ

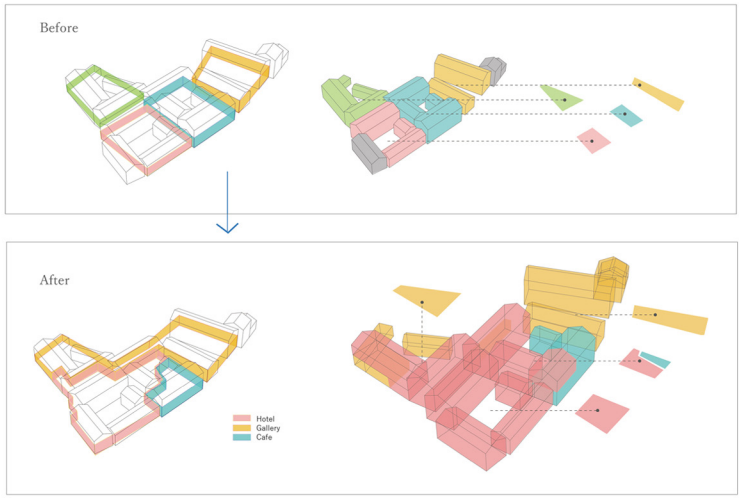
周辺を参考に復元する

復元したテクスチャ

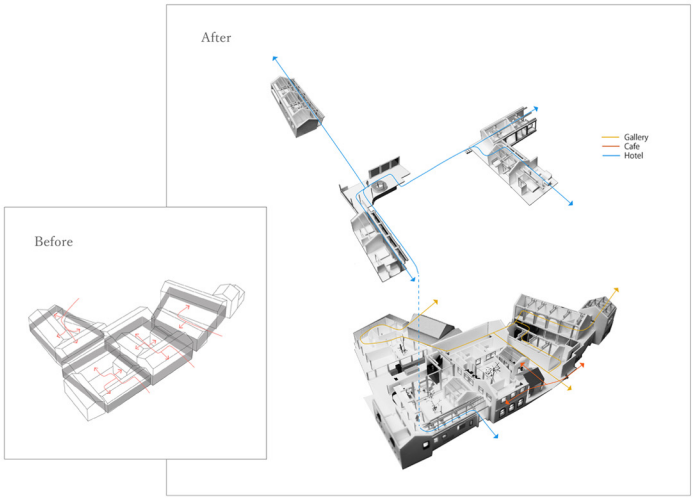
立面の境界：町の景観と合わせるため、歴史町の立面割合や材料を参考して設計する。



庭の組み合わせ：四合院のテクスチャを保証しながら、普通の一つ合院を単位とする形を脱出し、機能より合院を分割し直す。



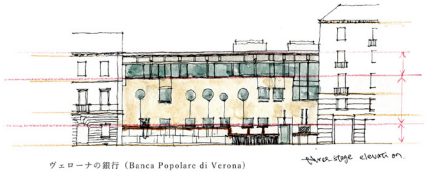
立体的な動線：人の空間体験をさらに面白くなるため、普通に一つ庭と一層だけでの活動動線を、さらに立体的に設計する。



カルロ・スカルパの設計手法の応用

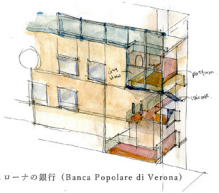
ヴェネツィアは、北京旧城のように、歴史街区の保存と計画を厳しく制限している。このような特殊な環境で、スカルパは歴史的な都市の景観を尊重するだけでなく、新しい素材やデザイン手法を運用し、自分の芸術に対する追求を実現した。これは都市と建築家のウィン・ウィンである。

▪ 都市のファサードの比率を尊重し、都市の景観を調和させる。

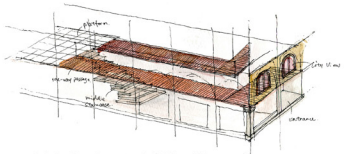


ヴェローナの銀行（Banca Popolare di Verona）

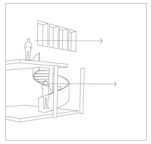
▪ 都市環境への視線を設け、視線を通じて歴史町の環境を強調し、基地と都市環境の連携を強化する。



ヴェローナの銀行（Banca Popolare di Verona）



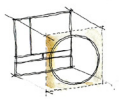
オリベッティ・ショールーム（Olilvetti Showroom）



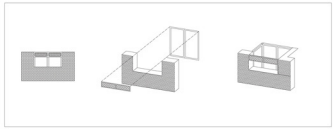
▪ 二層のファサードを活用することで、歴史町の景観と調和すると同時に、現代的なライフスタイルを満たす空間を作り出す。

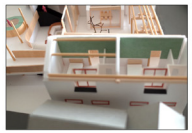
パラット　ホール
（Ca' Foscari University）

カステルヴェッキオ美術館改修（Museo Castelvecchio1961）

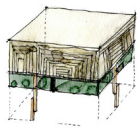


ヴェローナの銀行
（Banca Popolare di Verona）

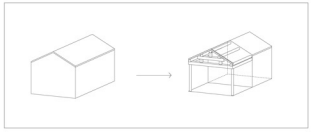




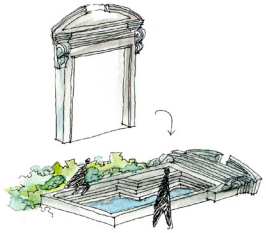
カステルヴェッキオ美術館改修
（Museo Castelvecchio）



ブリオン家墓地（Tomba Brion）

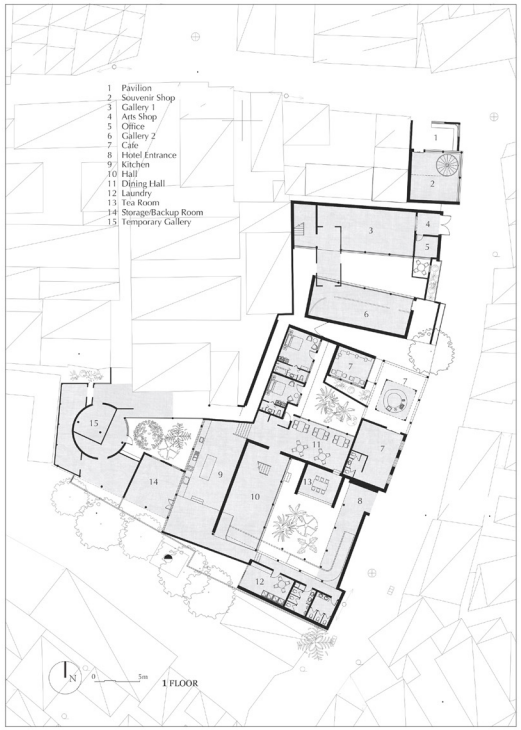


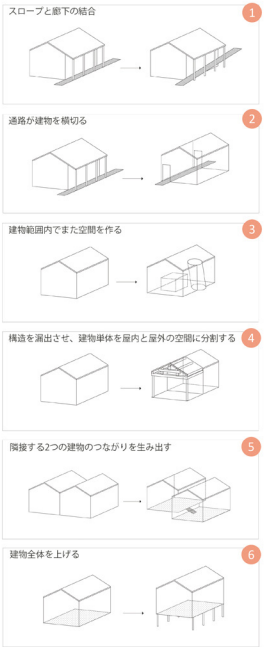
▪ 部分的に構造が露出した空間は、屋外空間を作り出すと同時に、建築全体を連想させる。ポイントを強調する。



ヴェネツィア大学建築学院のエントランス

▪ 歴史的な要素のある建筑を再利用し、現存する小さな建筑単体を茶室に改造し、大柵欄地区に集めた戸袋や窓などを組み分けて再利用する。



町の景観に応じる形の扱い

建物の位置は基本的に変わらない状況で、いくつかの庭のつながりと空間の体験をより豊かにさせる。歴史街区を尊重しながら、創意と活力を注ぎ、今の時代に呼応していく。